

**標準化カフェ：**

**グローバルチャレンジ・グローバルソリューション  
～高齢化は世界の課題～**

**2023年7月27日**

**日本規格協会**

# はじめに

- ・ 山田 肇（東洋大学、日本規格協会フェロー）



# 進行する社会の高齢化と国際標準化

- 国立社会保障・人口問題研究所「将来人口推計」
- 総人口：
  - 1億2,615万人（2020年）  
→8,700万人（2070年）
- 65歳以上人口
  - 3,603万人→3,367万人
- 15～64歳人口：
  - 7,509万人→4,535万人
- 将来、介護負担が爆発する恐れ
- 介護を予防する政策、家族だけに介護の負担をかけない政策などが必要になる
  - ISO TC 314が高齢社会政策ガイドランの標準化を進めている
- 情報通信技術を活用する健康・医療・介護技術が必要になる
  - IEC System Committee Active Assisted Livingが自立生活支援技術（ヘルスケアICT）の標準化を進めている

# ヘルスケアICTと標準化

- 一日7000歩運動
  - 歩数だけでなく、**歩き方センサ**で歩き方も指導すれば効果は高まる
- 発症の早期検知
  - 体に付けた**脈拍・血圧センサ**で発症を検知すれば、症状の深刻化が防げる
- 日常生活の状態把握
  - **家庭内のセンサ**で状態を把握すれば、ヘルパーを派遣するタイミングがコントロールできる
- 多くの標準化課題
  - **センサ情報の収集・送信・処理**
  - **センサがハッキングされないセキュリティ**
  - **複数システムの「けんか」予防**
    - 夜間に自動的に玄関や窓を施錠すると、発症を検知しても医療関係者が入室できない
- ヘルスケアICTの国際標準化が、IEC SyC AALの担務

# IEC SyC AALの組織



- WG 1 : 利用例を集め、ニーズを明確にする (日本)
- WG 2 : 自立生活支援システムの構成法 (アーキテクチャ) を定める
- WG 3 : 多くの標準との関係を整理する
- WG 4 : 関連規制情報を収集
- WG 5 : ネット接続された住宅環境
- MT 6 : 用語の定義を管理
- WG 7 : 複数システムが存在する際の安全性 (日本)

# 高齢社会政策ガイドラインの標準化

- 山田 肇
- グスタフ・ストランドル  
(こひつじ会グループ・国際ケアシステム)



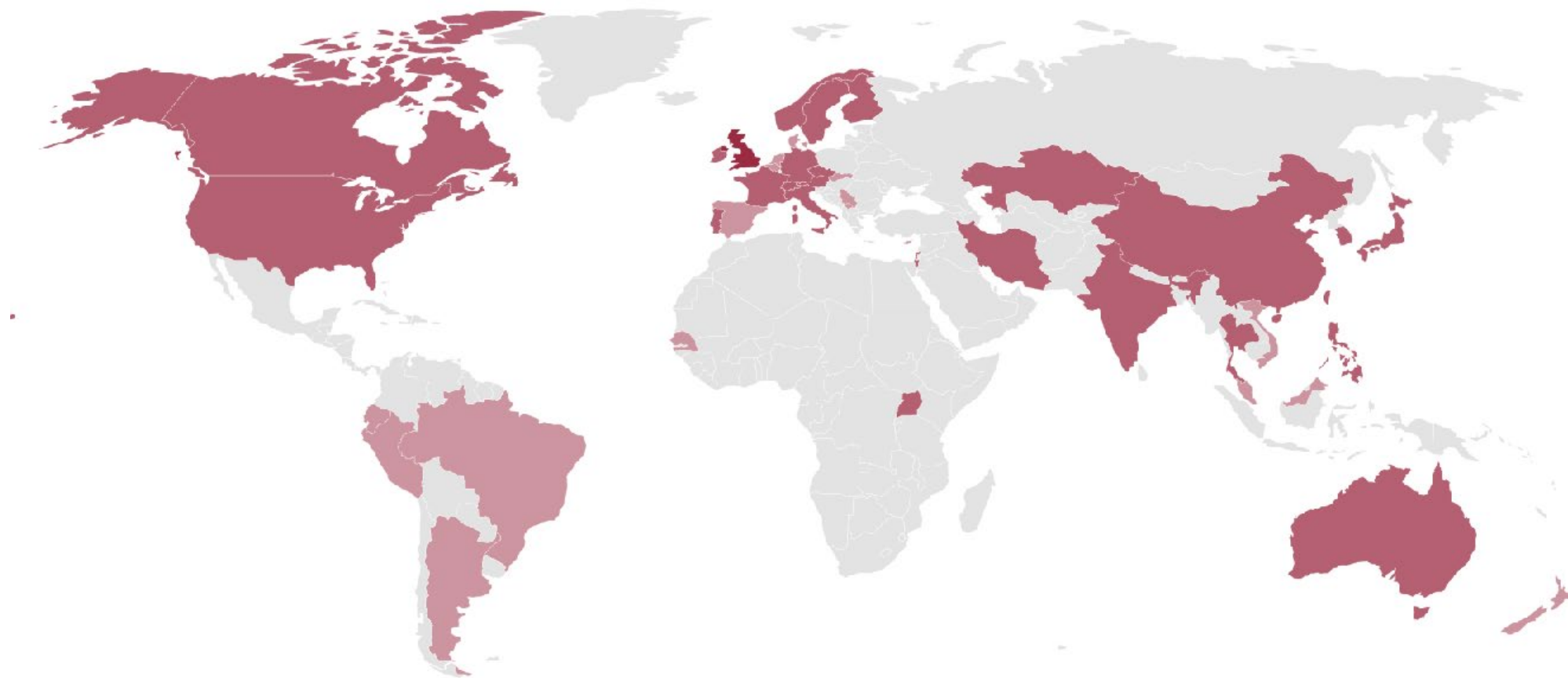
**Q 1 : ISO/TC 314（高齢社会）には、どのような国が参加しているのか？現時点で高齢化が深刻でない国も関心を持っているのか？**



# ISO TC 314の組織

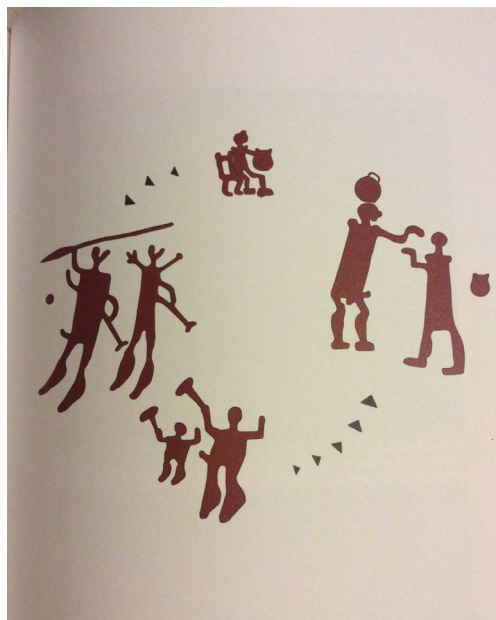
- WG 1 :
  - ISO 25550:2022（年齢を問わない労働力のための一般要求事項とガイドライン）
- WG 2 :
  - ISO 25552:2022（認知症包括ケアコミュニティーの枠組み）
- WG 3 :
  - ISO 25551:2021（介護者を含む組織の一般的な要件とガイドライン）
- WG 4 : ウェルビーイング（日本）
- WG 5 : 在宅ケア（日本）
- WG 6 : デジタル・インクルーシブ
- WG 7 : スマートな近隣地域
- WG 8 : ケア

# 世界各国の参加



# 4000年前の地域社会

- ジャレド・ダイヤモンド『昨日までの世界文明の源流と人類の未来』



# 介護サービスの誕生



## 生活サービス

心と心のふれあいを大切に  
看護・介護を目指します。  
療養室は生活の場という観点  
から換気、通風採光等に気を  
使いゆったりとした気分で療  
養生活を送って頂けます。



▲療養室

# 各国の介護施設（訪問事例）



**Q2：各国の介護施設には、国によって違いなどがあるのか？**

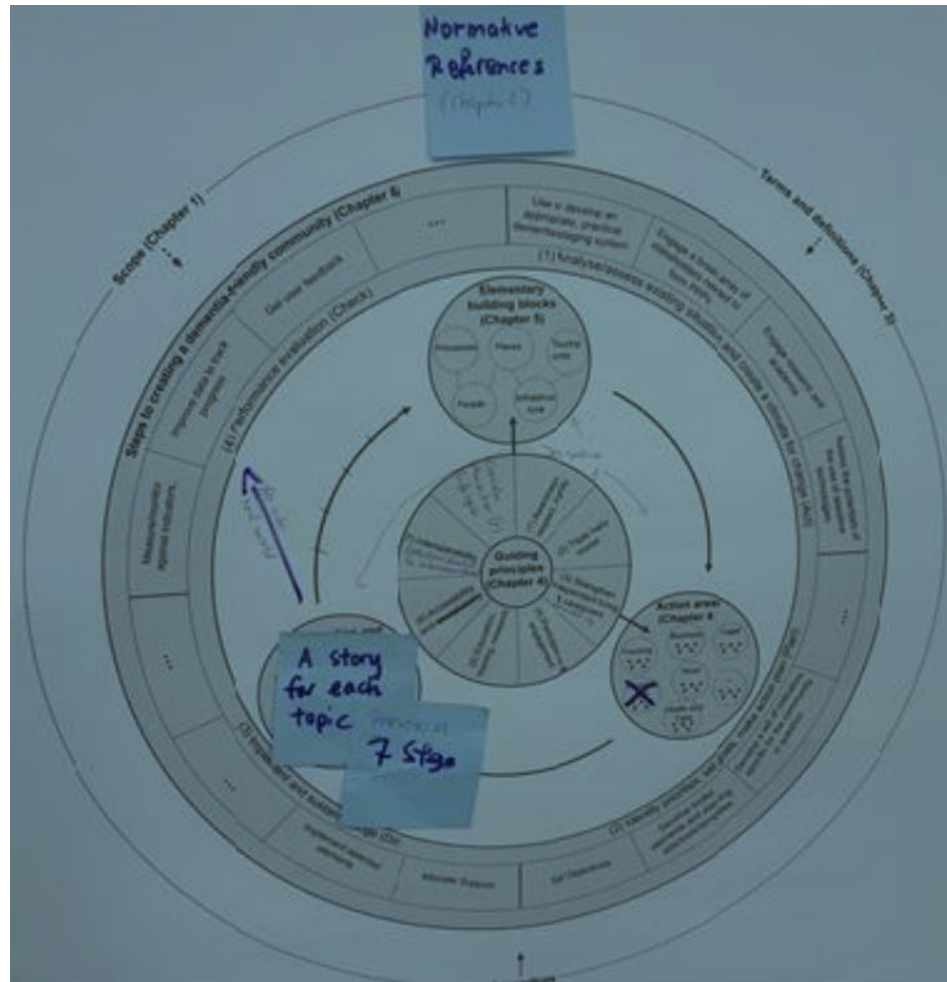












# 認知症基本法の成立とISO標準の活用



**Q3：標準化と国や地方公共団体が実施している実際の政策との関係とは？**

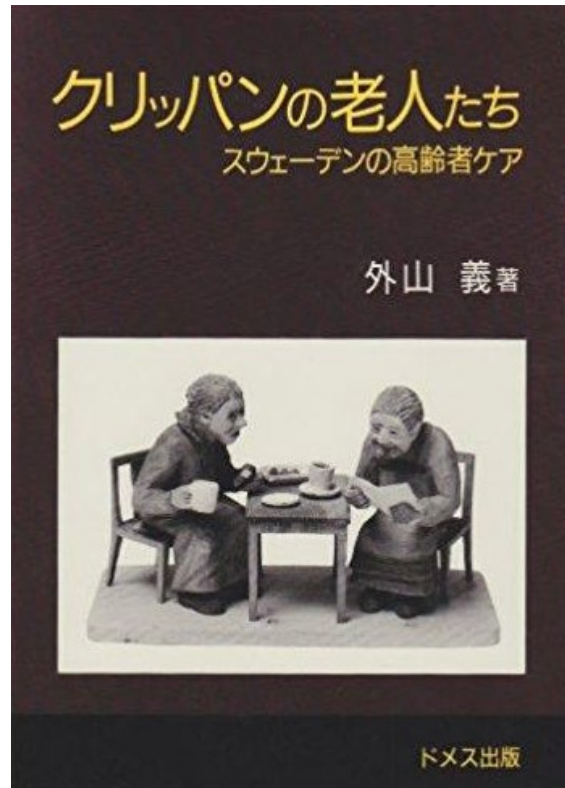


# 認知症基本法

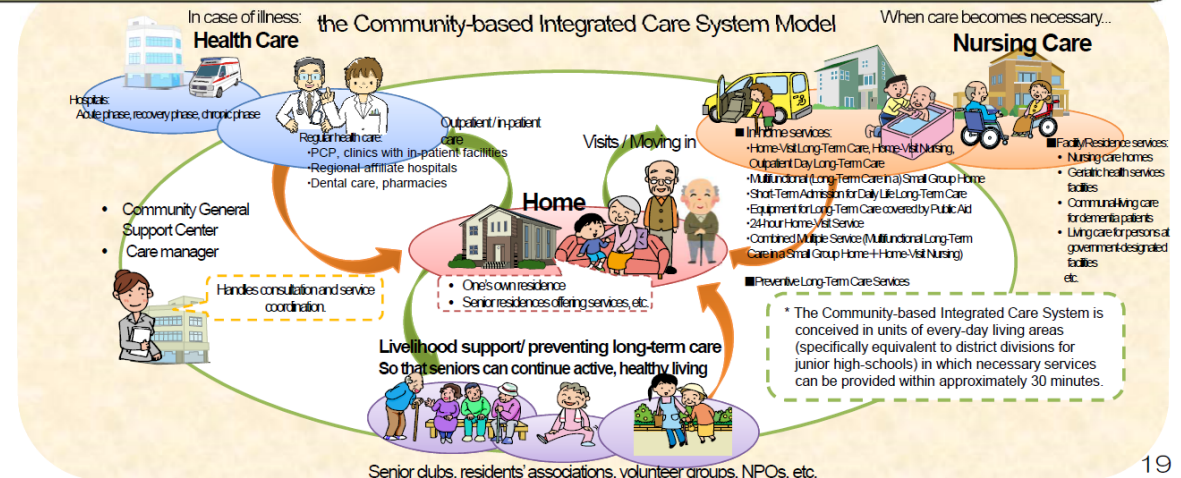
- 2023年通常国会で、議員立法が満場一致で成立
- 法律の目的（第1条）
- この法律は、我が国における急速な高齢化の進展に伴い認知症である者が増加している現状等に鑑み、認知症の予防等を推進しながら、**認知症の人が尊厳を保持しつつ社会の一員として尊重される社会の実現を図るため**
- 認知症に関する施策に関し、基本理念を定め、**国、地方公共団体等の責務を明らかにし、及び認知症施策の推進に関する計画の策定について定める**とともに、認知症施策の基本となる事項を定めること等により、認知症施策を総合的かつ計画的に推進することを目的とする

# 各国の介護政策

## ・スウェーデンの高齢者ケア ・日本の地域包括ケアシステム

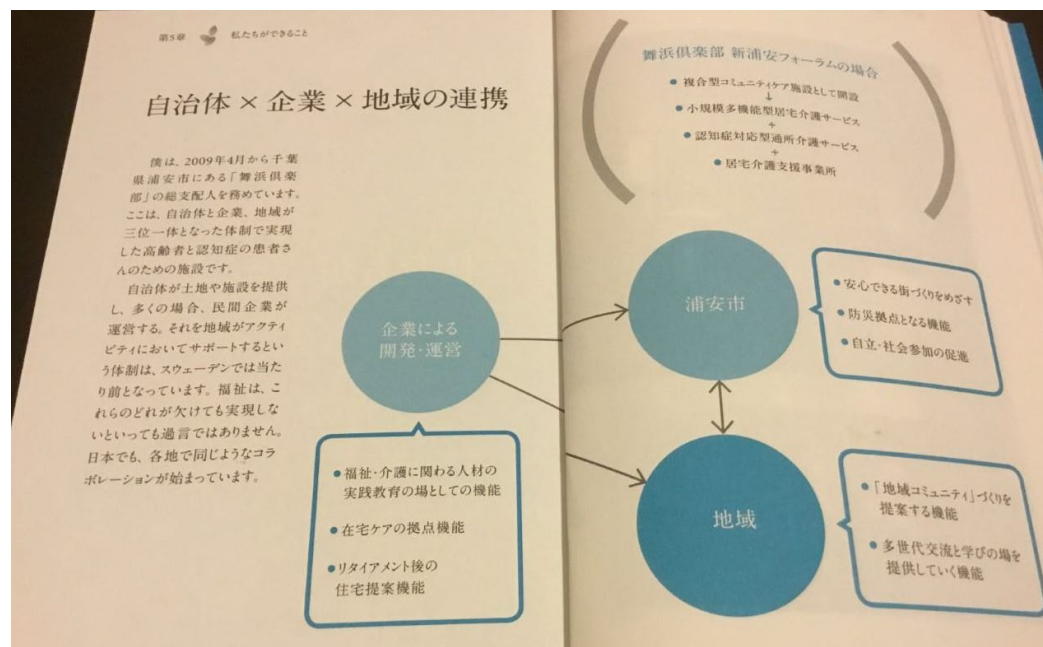


- By 2025 when the baby boomers will become age 75 and above, a structure called 'the Community-based Integrated Care System' will be established that comprehensively ensures the provision of health care, nursing care, prevention, housing, and livelihood support. By this, the elderly could live the rest of their lives in their own ways in environments familiar to them, even if they become heavily in need for long-term care.
- As the number of elderly people with dementia is estimated to increase, establishment of the Community-based Integrated Care System is important to support community life of the elderly with dementia.
- The progression status varies place to place; large cities with stable total population and rapidly growing population of over 75, and towns and villages with decrease of total population but gradual increase of population over 75.
- It is necessary for municipalities as insurers of the Long-term Care Insurance System as well as prefectures to establish the Community-based Integrated Care System based on regional autonomy and independence.



# 介護サービスでの公民連携

## • 自治体×企業×地域の連携



- 舞浜倶楽部は、高齢であっても、障がいがあっても、誰もが「自分らしく」、「自分が好きで慣れている環境」の中で生活することが個人の権利と考えています。



# 認知症対策三位一体化計画推進事業

- 市民、浦安市役所、市内地域包括支援センター、老人会、浦安警察署、自治会、社会福祉協議会、市内介護事業所、民生委員、各認知症カフェ団体、市民ボランティア団体、公民館等



認知症支援事例報告会



認知症カフェ フィーカ



認知症サポーター養成講座



事業所 認知症ケア研修会



はいかい高齢者見守り訓練



市民セミナー

# 日本への関心の高まり

# 「ユニバーサルデザイン」の地域社会

- 認知症の人と家族と共生する地域づくりの政策は、
    - 認知症の進行を抑え
    - 家族の負担を軽減する
  - 人口減少の中で地域社会を存続させる効果が期待できる
  - 障害者政策等も同様で、全体として「ユニバーサルデザイン」の地域社会を目指すのがよい
  - ヒントはISO 25552:2022に
- 松戸市のグリーンスローモビリティ



# ヘルスケアICTの活用

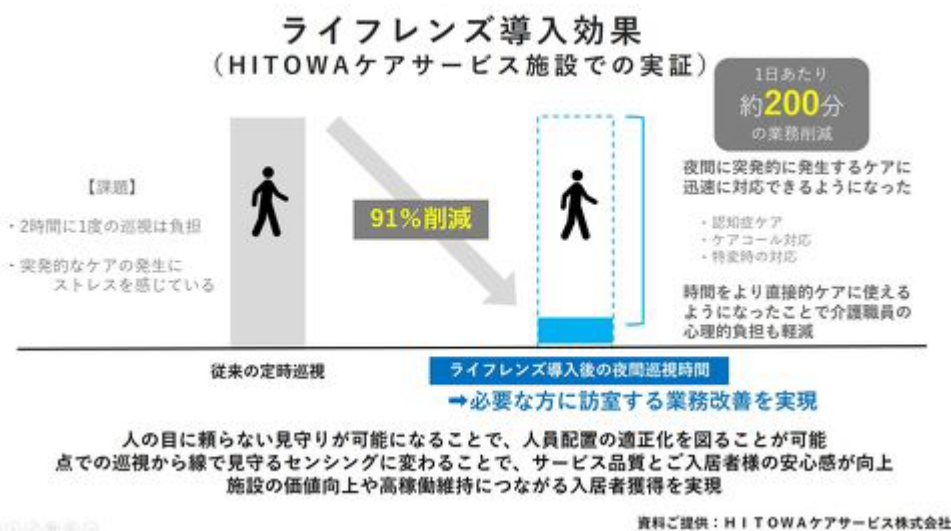


**Q4：認知症対策として、ICT技術はどのように利用されているのか？**



# 先行する事例

- 山梨県中央市：スマートウォッチとAIで高齢者を見守り
- パナソニック「ライフレンズ」：介護施設での夜間巡回の代替



# 今後への期待



# GLOBAL CHALLENGES, GLOBAL SOLUTIONS

(2017年1月23日 浦安市高洲中学校)

「20年くらい前までは老人ホームは森の中や、山の奥んど、人気のないところであって、社会からかくされていた。人の交流がなく、家族とすらも交流がなくて、ベッドでずっとねたきりだった。

でもスウェーデンが家族と会うなど交流をつくり、ケアをすることで安心した。私生活がおくれると気づいたことで、日本、また他の国もそういったケア、交流などを参考にし、今までのような暗い感じではなくなった。

ということがわかり、国同士が参考にしあう、協力しあうことで、どんどん良くなっていく」

この度は、お忙しい中、お来しくたさきり、ありがとうございました。  
話を聴いて、ちゃんと前、二十年くらい前までは、老人ホームは、森の中や  
山の奥など、人気のないところにあて、社会から、かくされていた。  
人と交流がなく、家族とすらも、交流がなくて、ベッドでずっとねたきりだった。  
でもスウェーデンが、家族と会う、など交流をつくり、ケアをする。  
ことで、安心した私生活がおくれると気づいたことで、日本、また、  
他の国も、そういったケア、交流などを参考にし、今までのような、  
暗い感じではなくなった。ということがわかり、国同士が参考に  
しあう、協力しあうことで、どんどん良くなっていく。  
すごく素敵だと思いました。

平成二十九年 一月二十三日